



▲100万人目の搭乗者となった坂本さん（左）

搭乗者数100万人を突破！

イルカの飛行機“ダッシュ8”

イルカの飛行機“ダッシュ8”の搭乗者数が4月7日、100万人を突破しました。この記念すべき100万人目は、市出身で大阪市在住の坂本弘美さん。坂本さんには、天草エアライン(株)の奥島透社長から大阪～天草往復航空券や花束、イルカの飛行機の模型が、天草空港利用促進協議会会長の安田市長から天草陶磁器が贈られました。

実家に帰省し、自宅がある大阪市へ帰るところだったという坂本さんは、「びっくりしていますが、うれしいです。これからも利用します」と笑顔で話していました。

戦没者を慰霊し、世界の恒久平和を願う

天草戦没者追悼式

4月6日、戦争で尊い命をなくされた天草島内の戦没者の霊を慰めるために、天草市・上天草市・天草郡苓北町の2市1町合同による「第8回天草戦没者追悼式」が天草市民センターでしめやかに行われました。

追悼式には、戦没者の遺族など428人が参列。戦没者之霊位に献花を行い、亡くなられた人たちのめい福をお祈りするとともに、二度と悲しみの歴史を繰り返すことのないよう、世界の恒久平和を祈念しました。



▲献花を行う参列者

咲き誇る桜と絶景を楽しむ

六郎次山ウォーキング大会

3月17日、深海町の六郎次山（標高405m）山頂をみざす「六郎次山ウォーキング大会」が開かれ、101人が参加しました。深海地区振興会が、同山の登山道沿いにある桜並木と、この時期に飛来する越冬ツルの姿を見てもらおうと毎年開催しているもの。参加者は、咲き誇る桜を眺めながら思いおもいのペースでウォーキングを満喫。山頂では、地元の特産品が当たる抽選会も行われ、にぎわいを見せていました。今回はツルが飛ぶ姿は見られませんでした。参加者は「山頂からの眺めが最高」と笑顔を見せていました。



▲水飲み場でひと休憩する参加者たち

天草市の憲法の制定に向けて

自治基本条例 市民意見交換会

3月3日から同26日にかけて、「自治基本条例市民意見交換会」を市内10カ所で開催しました。天草市のまちづくりの基本的なあり方を定める条例の制定に向けて、市民の皆さんのご意見をうかがおうと実施したものです。同3日に、天草市民センターで行われた全体会では、熊本県立大学総合管理学部の澤田道夫准教授による講演会を実施。各会場では、出席した市民から「高齢化による地域の担い手不足が課題」「地域活動の自主性を尊重した行政支援のルールづくりが必要」などの意見が出されました。

なお、市では今後も市民の皆さんを対象にした説明会を開催するなどして、同条例の制定に向けた取り組みを進めていきます。

▶講演を行う澤田准教授



▲意見交換会のようす（牛深会場）

感謝の思いを込めてお見送り

転勤する教職員のお見送り

3月29日、御所浦町から転勤する教職員11人の引っ越しと見送りがありました。同町では、小・中学校の児童・生徒や地区住民が、お世話になった教職員の引っ越しの手伝いをした後、港で見送りをするのが恒例となっています。御所浦港で行われた見送りには、地区住民約100人が参加。見送りでは、桟橋いっぱいの人だかりができ、船に乗り込んだ教職員にはたくさんの紙テープが渡されるなど、みんなで別れを惜しんでいました。



▲先生たちを見送るようす

満開の桜につつまれ楽しい一日

一町田さくらまつり

3月24日、一町田地区振興会主催による「一町田さくらまつり」が行われ、約200人が来場しました。まつりでは、地元の音楽教室などに通う小・中学生によるピアノの発表や、河浦中学校吹奏楽部が演奏を披露する青少年音楽祭があり、観客からは大きな拍手が送られていました。

また、グラウンドゴルフ大会や桜の名所で知られるコレジヨ跡公園をコースにしたウォーキングなども行われ、参加者は例年より早く満開となった桜を眺めながらのプレーやウォーキングを楽しんでいました。



▲河浦中学校吹奏楽部による演奏